

報道関係者各位

令和5年2月27日

## 赤れんが博物館企画展「令和4年度新収蔵品展」の開催について

### 【1】企画展

- 1 名称 舞鶴市立赤れんが博物館企画展「令和4年度新収蔵品展」
- 2 趣旨 令和4年度に新たに収蔵した資料を展示します。
- 3 日時 令和5年3月24日（金）～5月14日（日）会期中は無休  
午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
- 4 場所 舞鶴市立赤れんが博物館2階 特別展示室
- 5 入場料 常設展示と共通 一般400円、学生150円  
市内在住または在学の学生は入館無料
- 6 主催 舞鶴市立赤れんが博物館
- 7 内容 展示点数 れんが 19点
  - ① 九州大学箱崎キャンパス採集れんが 8点（福岡県福岡市）
  - ② 旧海軍大湊通信隊稚内分遣隊幕別送信所れんが 3点（北海道稚内市）
  - ③ 桃色（炭滓）れんが 2点（山口県宇部市）
  - ④ 石井閘門れんが 2点（宮城県石巻市）
  - ⑤ 三池炭鉱旧万田坑施設れんが 2点（熊本県荒尾市）
  - ⑥ 引揚者が作った建物のれんが 1点（ロシア・ハバロフスク市）
  - ⑦ 平城宮跡出土磚 1点（奈良県奈良市）



SDGs 未来都市

舞鶴市 観光振興課 赤れんが博物館  
〒625-0036 舞鶴市字浜 2011  
[TEL:0773-66-1095](tel:0773-66-1095)、[FAX:0773-64-5123](tel:0773-64-5123)  
E-mail: [renga@city.maizuru.lg.jp](mailto:renga@city.maizuru.lg.jp)

### 【2】主な展示物紹介

#### ◆九州大学箱崎キャンパス採集れんが（福岡県福岡市）

- 九州大学旧工学部本館地階鉋滓れんが  
（八幡製鐵所製）

1930((昭和 5)年竣工

222×109×57 mm 3.1kg



画像 九州大学大学文書館

箱崎キャンパスは、1911(明治 44)年に創設された九州帝国大学の工科大学として整備された場所で、以降、他学部も設置され、戦後、1949(昭和 24)年に新制九州大学が発足すると、文化系学部は 1964(昭和 39)年箱崎に完全移転した。九州大学は 1991(平成 3)年に福岡市西区へのキャンパス統合移転を決定し、2018(平成 30)年に伊都キャンパス移転が完了している。箱崎キャンパス跡地には、旧工学部本館(昭和 5 年竣工)、本部第一庁舎、本部第三庁舎、門衛所の近代建築を保存し、「箱崎サテライト」として整備が進められている。

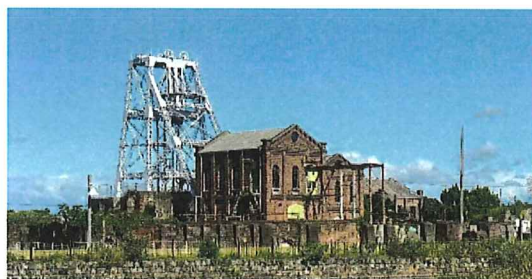
鉋滓とは製鉄の際の副産物で水硬性の性質があり、鉋滓れんがは八幡製鐵所の拡張に伴い大量生産された。

#### ◆三池炭鉋旧万田坑施設れんが（熊本県荒尾市）

- 倉庫及びポンプ室使用れんが

1905(明治 38)年竣工

225×108×60 mm 2.7kg



第二豎坑櫓・第二豎坑巻揚機室等旧万田坑施設  
画像 荒尾市

近代国家を目指した日本は、1873(明治 6)年三池炭鉋を官営炭鉋とし、1889(明治 22)年三池炭鉋は三井の経営となり、官営炭鉋時代からの技術者でもある團琢磨らの陣頭指揮のもと、勝立坑、宮原坑を開坑し、その集大成として開坑したのが万田坑であり、さらなる近代化を遂げた。1800 年代終わりから 1900 年代初めにかけて2つの豎坑が建造され、1900 年代前半に採炭が最盛期を迎え、日本の産業振興を支えた。しかし、1900 年代後半に入ると採炭効率が低下し、世界のエネルギーの主役が石炭から石油に移行したことから、1951(昭和 26)年に採炭が終了し、1997(平成 9)年に閉山となった。

旧万田坑施設は、日本の近代化を支えた場所として、国の重要文化財指定や世界遺産に登録されている。



SDGs 未来都市

舞鶴市 観光振興課 赤れんが博物館

〒625-0036 舞鶴市字浜 2011

TEL:0773-66-1095、FAX:0773-64-5123

E-mail:renga@city.maizuru.lg.jp



### ◆引揚者が作った建物のれんが (ロシア ハバロフスク)

れんが製造 1949 年頃  
225×108×60 mm 2.7kg



2016年ハバロフスク訪問時、ご自身がれんが積み作業をされた建物の前で  
画像 山下真由美さん

原田二郎さんは1924(大正13)年綾部市に生まれ、1945(昭和20)年、陸軍に志願して満州に渡る。同年8月の終戦から2か月後ソ連軍によってハバロフスクの収容所に連行され、建築や荷役の労働に従事。一番長く通った建設現場での主な作業は1日380枚がソルマのれんが積みであった。1949(同24)年11月舞鶴に帰還された。

2016(平成28)年には長年の念願であったハバロフスクを67年ぶりに訪問し、旧収容所跡、日本人墓地、建築に係わった建物を訪ねた。かつてれんがを積んだ建物は現在、教育大学として使用されており、展示のれんがは同大学を訪問した際、大学建物のれんがとして教授より贈呈されたものである。

2008(平成20)年からシベリア抑留者体験者として舞鶴引揚記念館で語り部として尽力され、2021(令和3)年96歳で逝去された。

### ◆平城宮跡出土磚(奈良県奈良市)

第一次大極殿 715年竣工(推定)  
290×160×79 mm 6.5kg



平城宮跡歴史公園の復原された第一次大極殿。奈良時代、大極殿は「磚積擁壁」の上にそびえていた

平城京は、藤原京から遷都し唐の長安をモデルとして710年に造られた。平城京の正門である羅城門と平城宮の正門である朱雀門を結ぶ朱雀大路の延長上、宮の中央に南から北へ向けて緩やかに傾斜する場所を第一次大極殿院と呼んでいる。大極殿院は、天皇の即位や元日朝賀などの国家儀式、あるいは外国使節の歓迎の儀式がおこなわれた施設で、第一次大極殿院地区は、710年の平城京への遷都当初から740年に恭仁京へ遷都されるまでの間、大極殿院が置かれていた。南半分を広場とし、北半分では黒い磚積みの高さ約2メートル、東西約100メートルの擁壁を設けて壇を形成した。天皇の座がおかれる建物である大極殿の荘厳さを体感させる仕組みのひとつといわれている。展示の磚はこの磚積擁壁に使用されていたと考えられる。



SDGs 未来都市

舞鶴市 観光振興課 赤れんが博物館

〒625-0036 舞鶴市字浜 2011

TEL:0773-66-1095、FAX:0773-64-5123

E-mail:renga@city.maizuru.lg.jp